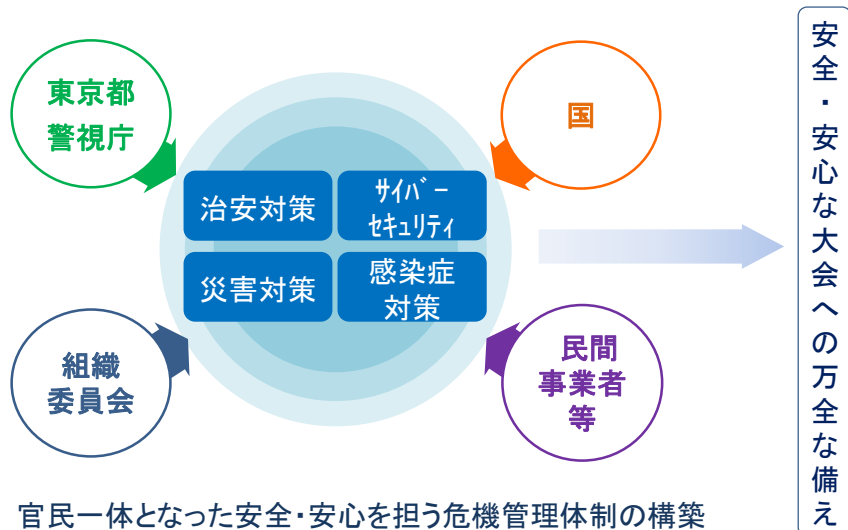


平成29年10月12日(木)
平成29年度感染症危機管理研修会
国立感染症研究所 戸山研究庁舎

オリンピック・パラリンピックに関する 東京都のサーベイランスの取組み

東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課
杉下由行

東京2020大会に向けた安全・安心の取組



大会において懸念される感染症の課題

想定されるリスク

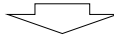
【感染症の持込み】

国内外から多くの人々訪れ、様々な感染症が持ち込まれるリスク

【感染症の流行拡大】

一定のエリアに人々が集中し、通常と異なる規模で感染が広がるリスク

- 国内未発生の重大感染症発生
エボラ出血熱、MERS、鳥インフルエンザ(H5N1・H7N9)等
- 大会に影響を及ぼす感染症の流行拡大
麻疹、風しん、侵襲性髄膜炎菌感染症等
- 都内で通常発生が認められない特異的な事例発生
蚊媒介感染症の国内感染等



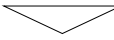
流行拡大防止のために

- 感染症の発生をより早期に確実に把握し、適切な対応に繋げる必要
- その基礎となるサーベイランスを強化

東京2020大会に向けた 感染症サーベイランス体制の検討

＜現行サーベイランスの確認＞

現行サーベイランスの内容や特徴を確認し、それぞれの利点や問題点について検討



＜現行サーベイランスの検証＞

輸入感染症のケースと、都内における感染の急速拡大ケースを想定して、現行サーベイランスの課題等を検討



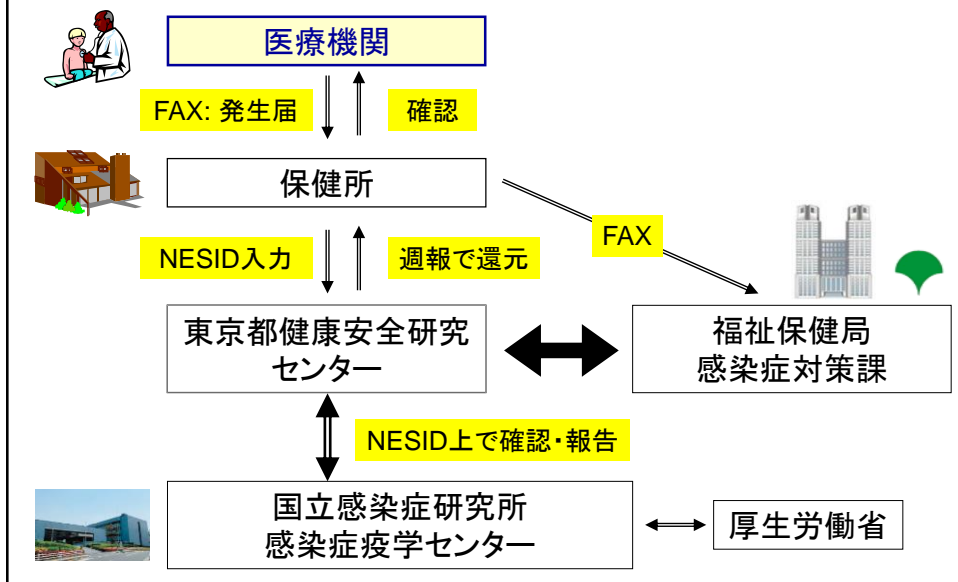
検討結果を踏まえ、東京2020大会に向けた今後の感染症サーベイランス体制の方向性(案)を整理

東京都における感染症サーベイランス

1. 感染症発生動向調査（患者全数把握）
2. 感染症発生動向調査（患者定点把握）
3. 集団発生報告
4. 感染症発生動向調査（病原体サーベイランス）
5. 検体・菌株確保
6. 東京感染症アラート
7. 蚊媒介感染症疑い検査・麻しん疑い検査
8. 感染症発生動向調査（疑似症サーベイランス）
9. 救急搬送サーベイランス
10. イベントベースサーベイランス

1. 感染症発生動向調査（患者全数把握）

1類～4類、5類全数

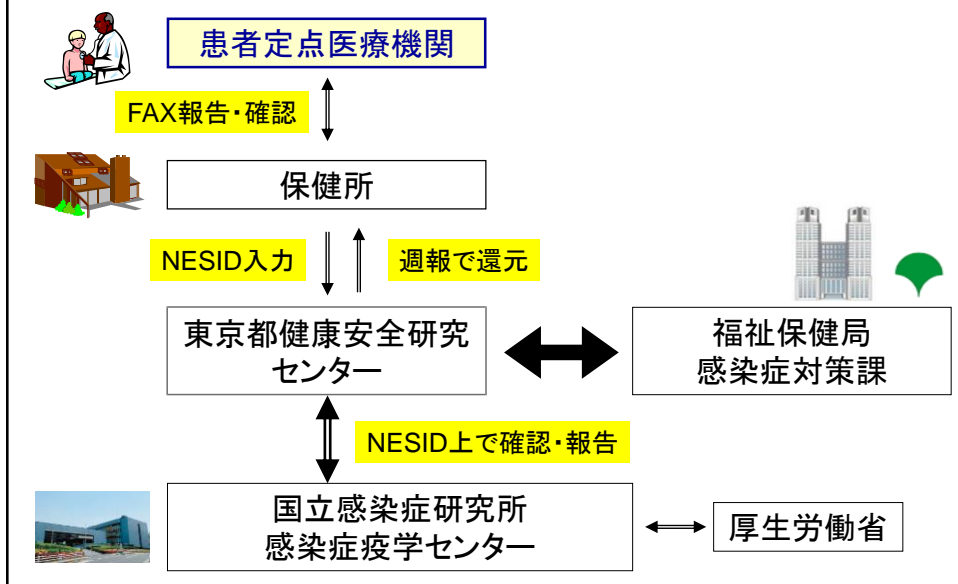


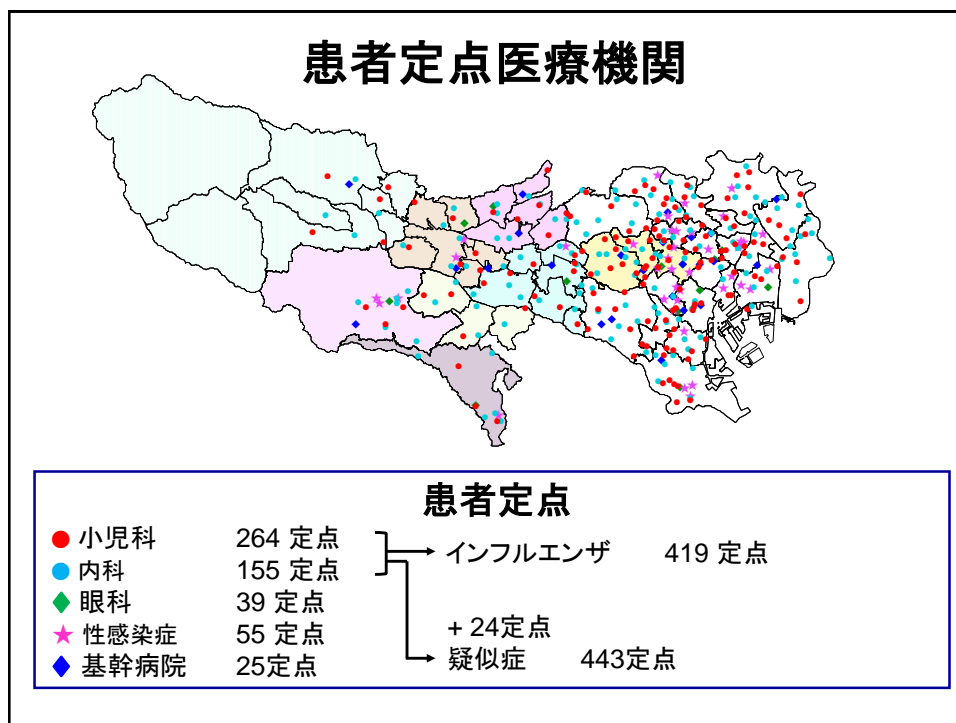
1. 感染症発生動向調査(患者全数把握)

現状・課題	東京2020大会に向けた方向性(案)
1. 一番中心となるサーベイランスとして機能 ・感染症発生を探知する最も基本的な手段	・医療機関の理解や協力を得るための周知活動
2. 情報が限定的 ・発生届は原則として全国共通の書式	・届出時における追加情報の検討
3. 都民の正しい知識が重要 ・医療機関受診に結びつかなければ対応に繋がらない	・感染症に関する知識の向上

2. 感染症発生動向調査(患者定点把握)

5類定点疾患





2. 感染症発生動向調査(患者定点把握)

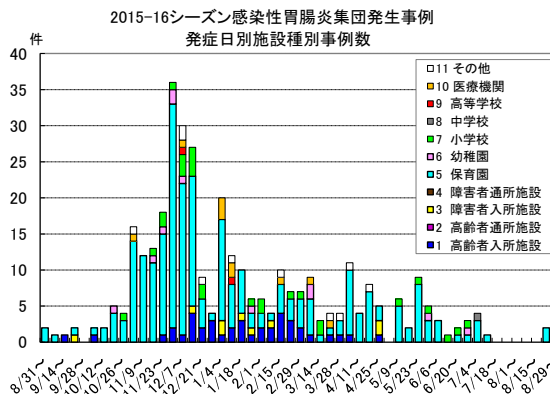
現状・課題	東京2020大会に向けた方向性(案)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身近なサーベイランスとして機能 ・市中の流行状況を把握し、公表することで発生・拡大防止に活用されている。 2. 精度確保に向けた課題 ・サンプリング調査であるため、定点のあり方に左右される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着実に実施しつつ、五類定点把握疾患の発生動向の確実な把握を図る。

3. 集団発生報告

学校等の施設からの集団発生について把握

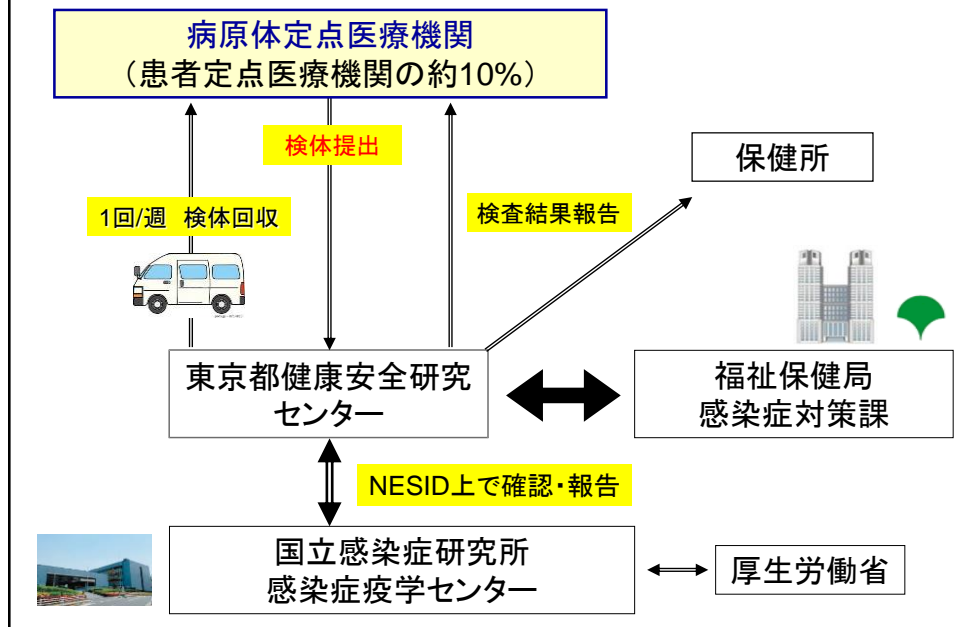
<対象疾患>

1. インフルエンザ
2. 麻疹
3. 風しん
4. 感染性胃腸炎



現状・課題	東京2020大会に向けた方向性(案)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設等における感染症集団発生を把握する仕組みとして定着 2. 発生状況を把握することで保健所の対応に生かされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行を維持し着実に実施

4. 感染症発生動向調査(病原体サーベイランス)



5. 検体・菌株確保

発生動向の把握、感染経路等の究明、まん延防止などの行政目的のため、検体・菌株を確保して、健康安全研究センターにおいて、検査、分析を行っている。

全数届出疾患のうち、あらかじめ可能な限り全ての届出について確保するもの（腸管出血性大腸菌感染症など）と集団発生の場合に確保するもの（E型肝炎など）を定めている。

【根拠】

感染症法第15条（積極的疫学調査）等

検体—生体試料（血清、咽頭ぬぐい液など）

菌株—検体から病原体が分離されたもの

4. 感染症発生動向調査（病原体サーベイランス）

5. 検体・菌株確保

現状・課題	東京2020大会に向けた方向性（案）
1. 病原体サーベイランスでは、小児科、インフルエンザ、性感染症等の定点把握疾患を一通り網羅して検査を実施しており、関係機関が参考データとして活用している。 2. こうした病原体の動向データは感染症対策に不可欠であることから、今後もの確に把握し、還元する必要がある。	今後の検査体制の検討の中で整理

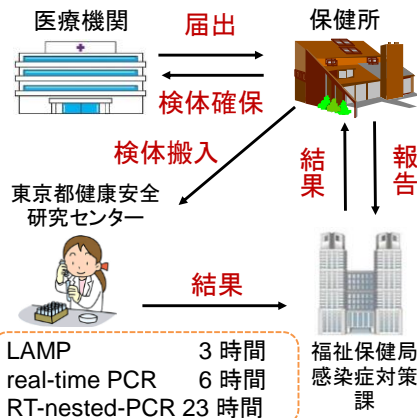
6. 東京感染症アラート

「東京都感染症予防計画」に基づく
疑い例の段階で早期に病原体検査を実施することにより、患者の発生を迅速かつ的確に把握する都独自の仕組み

【対象疾患】

1. 鳥インフルエンザ(H7N9)
2. 鳥インフルエンザ(H5N1)
3. SARS
4. MERS

休日・夜間でも、都保健医療情報センター(ひまわり)に連絡することで対応可能



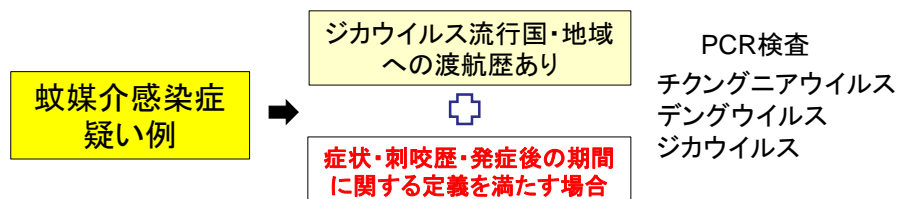
現状・課題

東京2020大会に向けた
方向性(案)

- ・ 重大な感染症の探知に有効であり、その後の迅速な対応(緊急検査、調査、医療提供等)が可能

- ・ 現行を維持し着実に実施(国内外の感染症の動向に応じて対象疾患は機動的に設定)

7. 蚊媒介感染症疑い検査・麻しん疑い検査



現状・課題

東京2020大会に向けた
方向性(案)

- ・ 国指針で対策を講じるべきとされている感染症の疑い症例に対して、効果的な対応(患者調査、検査)が可能

- ・ 現行を維持し着実に実施

8. 感染症発生動向調査(疑似症サーベイランス)

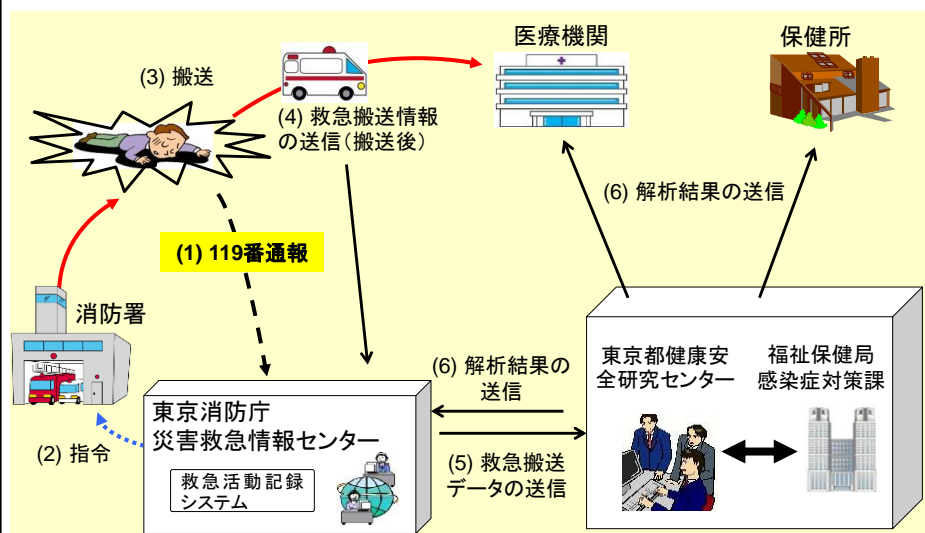
疑似症の症例定義

1. 原因不明の発熱(38.0℃以上) + 呼吸器症状
2. 原因不明の発熱(38.0℃以上) + 発疹・水疱

→上記の定義を満たす症例を診断した疑似症定点医療機関は直ちに最寄りの保健所に届け出る。症例がない場合は、週に一回、保健所にゼロ報告することが求められる。

現状・課題	東京2020大会に向けた方向性(案)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 報告すべき症例の定義や報告タイミングの浸透が十分でないことなどから、サーベイランスとして精度の面で課題がある。 2. また、このような背景から、得られた情報の評価や活用が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生が無いことを確認できるように、疑似症定点の報告を一層徹底 ・大会期間中は疑似症定点(病院)に加え、感染症医療を担う一定の病院から、毎日、病院における感染症情報を得る仕組みを検討

9. 救急搬送サーベイランス



症状の情報: 発熱、発疹、呼吸障害、嘔吐・嘔気、痙攣、意識障害等

9. 救急搬送サーベイランス

現状・課題	東京2020大会に向けた方向性(案)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本サーベイランスは、特定の地域で特定の症例が一定程度集積しているかを監視しているものである。 2. しかし、救急搬送の症例で、有意な集積が形成されることは通常無いため、現状では、救急搬送情報から特別な異常が無いことを確認する役割を担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のサーベイランスを補完し、地域の状況をモニタリングする手段として引き続き活用 ・大会に向けて、運用、情報還元、保健所対応への活用について検討

10. イベントベースサーベイランス



ProMEDメールと国内メディアからの感染症関連情報
 →健康安全研究センターからメーリングリストを通じて関係機関へ配信

感染症(食中毒)に関係した各地のメディア情報を配信しています。ただし、記載したURLは頻繁に変更になりますのでご注意ください。また、記事の内容の評価はおこなっておりません。

○結核で30代男性死亡、11人感染＝早めの受診呼び掛け―川崎(時事通信)
<https://www.kiji.com/vic/article?k=2017082501184&g=soc>

○結核で集団感染 30代男性が死亡(神奈川新聞)
<http://www.kanaloco.jp/article/273323/>

○ワクチン量、昨年下回る見通し インフル「接種者は確保」(共同通信)
<https://this.kiji.is/273764157709321720?c=39546741839462401>

○インフルワクチン製造量減少へ「13歳以上は1回に」(NHK)
<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20170826/k10011112991000.html>

10. イベントベースサーベイランス

WHO、CDC等のWebサイトによるアウトブレイク情報は定期的にレビューされ、**毎週1回**のWeb会議で共有



World Health Organization Disease Outbreak News (DONs)
 7 December 2016
 Human infections with avian influenza A(H5N6) virus – China

A(H5N6)のヒト感染例 中国:2確定例

年齢	性	発症	入院	診断	地域	感染源	報告時の容態	接触者
47	女	11/18	11/18	11/20	Hunan Province (湖南省)	調査中	重篤	
30	女	11/8	11/18		Guangxi Province (江西省)	死んだ家禽への暴露	重篤	127名の健康監視継続も、有症状者はなし

WHO リスクアセスメント

- A(H5N6)ヒト感染例は重篤な症状を引き起こすが、依然限定的で継続するヒト-ヒト感染は認めず、国際的な拡大のリスクは低い。
- グローバルインフルエンザサーベイランス(GISRS)では引き続き注視していく。

(<http://diseases.org/chinas>)

ジカウイルス感染症

ジカウイルスの確定土着症例を認めた国・地域(2016年11月4日時点)

最近3か月間に広範囲感染
 最近3か月間に散发感染
 3か月以前の感染

アジア地域 9/9時点との比較
 フリジランド、ベトナム、フィリピン、マレーシア、インドネシア、ソロモン諸島、バヌアツ

※11/7パラオにて国内感染例が確認された

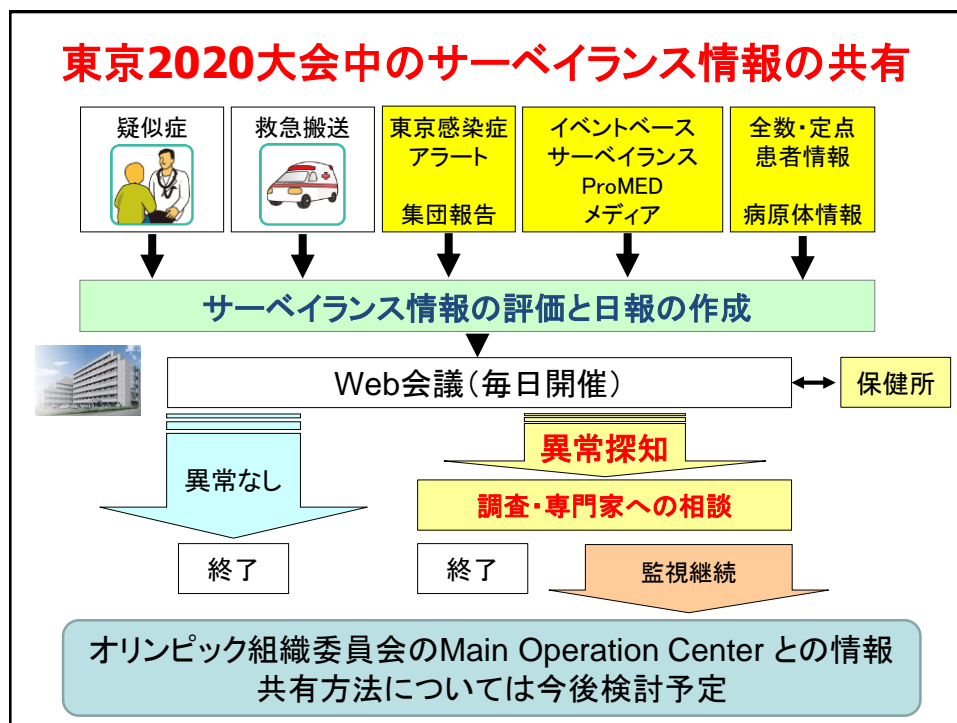
10. イベントベースサーベイランス

現状・課題	東京2020大会に向けた方向性(案)
-------	--------------------

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 国内外の感染症の動向を関係者が把握する手段として有用だが、活用につながる工夫が必要 アセスメント情報は配信しておらず、何が問題なのかや対応につなげるかは、個々の判断に依存 | <ul style="list-style-type: none"> より理解されやすい形で関係機関等に提供するなど、情報が活用されやすくする方策を検討 |
|--|---|

方向性のまとめ

項目	方向性
通常と異なるリスクへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 大会期間中のサーベイランス強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 届出時における追加情報の収集(例:患者の渡航・滞在歴等) ・ 感染症診療を担う一定の医療機関からの情報収集強化 ・ 既存サーベイランスの運用改善
サーベイランスの精度確保	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サーベイランスを支える基盤の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関へのサーベイランスの理解促進、連携強化 ・ 都民への啓発



今後の予定

29年度(2017年)	30年度 (2018年)	31年度 (2019年)	32年度 (2020年)
<div data-bbox="521 520 644 576" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">平昌大会</div> <div data-bbox="339 607 796 756" style="background-color: #f9cb9c; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>■東京2020大会に向けた感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行のサーベイランスの運用改善 ・大会期間中のサーベイランス強化の具体化 </div>		<div data-bbox="815 520 951 576" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ラグビー W杯</div> <div data-bbox="815 607 982 756" style="background-color: #f9cb9c; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>試行・検証・ 本稼働</p> </div>	<p>東京 2020 大会</p>